

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800622	事業の開始年月日	平成15年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会		
事業所名	グループホーム そよ風		
所在地	(236-0022)		
	横浜市金沢区町屋町11-16		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果 市町村受理日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ◆入居者の方、お一人おひとりの個性、生活習慣を出来る限り大切にし、自由にその方らしい生活がホームでも出来るよう支援しています。
- ◆ホームそして入居者の方を、近隣の方が地域の一員として認めて下さっており、又ボランティア等の協力をしてくださっている。
- ◆法人が総合病院の為、医療面でのサポートが受けやすい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年12月7日	評価機関 評価決定日	平成28年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行金沢文庫・金沢八景から徒歩約10分、歴史ある寺町の面影を残す街の中にあります。木造2階建て家屋を改修した、1ユニット9名定員のこじんまりとしたグループホームです。

<優れている点>

開設から12年、利用者の多くが地元の人ということもあり、近くの商店街や地域の人々とは、挨拶や買い物、差し入れのお返しなどごく当たり前のご近所付き合いがあります。利用者家族の安否確認を、近隣の人にお願ひできる関係性も築いています。利用者との関係性が近く、何でも言い合える雰囲気があります。時には利用者のユーモアある会話や年長者としての行動に、職員が励まされ勇気づけられる場面があります。利用者の暮らす家が変わっても、一人ひとりの個性や生活習慣、自由を大切に生活のために、さらなる取り組みとして、今年度の職員会議での話し合いから、事業所の理念、介護姿勢に基づいた職員一人ひとりのケア目標を立てています。理念とともに玄関など目のつく場所に掲示し、実践につなげています。

<工夫点>

事業所は、利用者を支える家族に対しても、毎月発行の「そよかぜ」は利用者の様子のほか、それぞれの家族を気遣う手書きのコメントを添えています。家族が書いた事業所への「ありがとうカード」がかながわ感動介護大賞の感動推奨事例で取り上げられています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム そよ風
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員・関係者が目につく事務所、玄関に理念を掲示し、職員が常に理念を確認できるようにしている。職員一人ひとりが今年の介護目標を立て努力している。	今年度4月、職員会議での話し合いから、事業所の理念、介護姿勢に基づいた職員一人ひとりのケア目標を立てています。理念とともに玄関など目につく場所に掲示し、実践につなげています。27年度末には、目標の達成度など振り返る予定となっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の買い物は、出来るだけ町内の商店を利用するよう心がけている。商店の方々も、入所者、ホームを温かく見守ってくれている。ご近所の方からの差し入れも多く、ホームからは利用者さんと育てた胡瓜、ゴーヤなどをお返ししている。	利用者の多くが地元の人なので、近くの商店や地域の人々とは、挨拶や買い物、差し入れのお返しなど当たり前のご近所付き合いがあります。自治会との関係も良好で、町内の祭りや敬老会に参加しています。愛児園主催の芋煮会での交流も続いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご近所で相談にみえたり、見学にいらしたご家族には、認知症について、又介護方法についてお話しさせていただいている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域推進会議には、民生委員、地域包括支援センター、ご家族、地域の方、利用者様に出席していただき、ホームの運営状況や現状について伝えている。サービス内容についてもアドバイスいただくことが多い。	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に開催しています。出席者は家族や民生委員、地域包括支援センター職員のほか、退去者家族がメンバーとして協力しています。玄関の施設について、出席者から様々な立場での意見やアドバイスが出ています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市・県の主催する研修会に積極的に参加している。生活保護を受けている方もおり、市と年数回面談している。	運営推進会議に区の職員の出席はありませんが、議事録を窓口に持参し報告しています。利用者の担当ケースワーカーとは、年2回の訪問のほか随時連絡をとっています。連携を深めるため、区のグループホーム連絡会立ち上げの検討が始まっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束は行わない」事を、職員間で研修・ミーティングを通して確認できている。拘束しないぶん職員は目配り、気配りを怠っていない。玄関の施錠については、玄関前を車が通るため交通事故の危険があり施錠することもある。	身体拘束ゼロへの手引きがあり、事業所の内部研修で、身体拘束をしないケアについて学んでいます。職員は利用者に背を向けない動線を確認するように努めながら、利用者の自由な行動を見守っています。利用者の安全確保を最優先に、玄関を施錠する場合があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修・ミーティングで虐待について学び、職員間で虐待についての共通認識をもって介護をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者は必要に応じて、安心センターや後見人を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時ご家族に契約書に沿って説明し、同意を戴いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時、管理者、職員と話す機会を取っている。運営会議には利用者、ご家族にも参加いただき、意見を伺っている。	意見箱と面会時、誕生日会といった行事参加や運営推進会議、外部評価受審時の家族アンケートなど意見要望を聞く機会を設けています。毎月発行の「そよかぜ」は利用者の様子のほか、それぞれの家族を気遣う手書きのコメントを添えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、朝夕のミーティングの中でスタッフの意見を聞き、反映させている。 又、職員会議で職員の提案を受けている。	隔月開催の職員会議は、夜勤者を除く職員全員が参加しています。業務改善提案は、朝夕2回の申し送り時や、職員が直接管理者に提案することもあります。設置法人として、職員の「自己申告書」の提出あり、異動や勤務体制の参考にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務日、有給等、前月に希望を取り極力職員の希望に沿った勤務体制をとっている。職員が話しやすい、協力体制を作れる環境を心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修、外部研修に職員が参加できるように、声かえするように心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢区内のグループホーム連絡会や研修会に参加、交流を深めている。法人内他施設の管理者と会議勉強会を通し、情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員全員でご本人の話をよく聞き、不穏な行動も何故そうするかを、職員間で話し合い理解するよう努めている。ホームの中で、ご本人の居場所や役割を見つけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所に至る経緯を伺い、ご家族のお気持ちにまず寄り添うよう心掛けています。必要に応じて在宅時のケアマネ等関係者からお話を伺うようにしています。入所することでご家族が、罪恶感を持たれないようお話しさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族と話し合い、ご家族・ご本人の不安な事、要望について出来るだけ具体的な対応をするように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除、食器の片づけ、洗濯物干し・畳み等、利用者が出来ることは行って戴いている。利用者さんのユーモアがある会話、行動で職員は和まされ、勇気付けられることもあります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には出来るだけ面会に来ていただくようお願いしている。現在、毎日来てくださっているご家族が2家族いらっしゃる。お誕生会にご家族をご招待したり、隔月のおたよりでホームの様子、ご本人の様子をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご近所から入所された方も多く、友人、知人が訪ねて来やすい雰囲気作りを心がけている。散歩の時や外出時には、入居者さんの馴染みの場所を歩くことも多い。	家族や友人、知人の面会時は茶菓でもてなし、ゆっくり談笑してもらっています。面会に来ることを日課にしている家族もあり、昼食を提供することもあります。家族の安否確認を近隣の人に依頼できる関係性も築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者さん同士の関係は職員が把握し、クッション役も取っている。入居者さん同士は、それぞれに寄り合う場面も見られ概ね、良好な人間関係が築けている。それぞれのお部屋を歩き来し、交流を楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了も、必要に応じて様々な相談に応じている。必要な手続きについてもフォローしている。契約終了後も、地域推進会議にも参加してくれているご家族もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人の思いを、食後やおやつの時間にお聞きし、対応している。	利用者と職員は何でも言い合える雰囲気があります。リビングでの何気ないやりとりや入浴でリラックスした折に、利用者の本音を引き出すこともあります。疎外感を感じることはない対応と、得意なことで頑張ってもらうなど、申し送りで共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みの家具を持ってきていただく等、ご本人が落ち着ける環境づくりを心がけている。ご本人の行動や習慣を大切に考えながら、より安心できる生活の場を作るように心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝夕の申し送りを受け、入居者さんの心身の状況を把握し、職員間で状態を共有する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員会議で定期的にカンファレンスを行っている。ご家族とは、来所の際に面談を行いご家族の要望等お聞きしている。	利用者と家族の意向を踏まえ、利用者の現状に則したケアプランを作成しています。「課題整理総括表」をアセスメントに活用していくことを、職員会議で話し合っています。退院後など、大きな状況変化があった場合は、期間に拘わらず見直し変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に日々の様子を記録している。朝夕のミーティングで確認したこと等を申し送りとして記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族によっては、残された夫(妻)が一人暮らしになってしまうため、夫の安否確認を行っているケースもある。又、昼食(実費)を提供することもある。場合によっては、必要な機関につなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会、地域包括支援センター等を活用し入居者さんの生活がより豊かな物となるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者さん、ご家族の希望に沿ってかかりつけ医を決め、定期的な受診を行っている。	事業所の協力医療機関のほか、利用者が決めたかかりつけ医に受診しています。受診には管理者が付き添っています。協力医療機関の訪問診療を受けることも可能となっています。訪問看護師とは24時間の対応が可能で、適宜アドバイスを得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと医療連携を行って、入居者の健康管理に努めている。又、法人が総合病院の為必要時には法人に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、ホームから病院に介護サマリーをお渡ししている。入院中は、医療スタッフから状況を細かく聞き、退院後の生活がスムーズにスタートできるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りは、行っていない。本年度は、6、7、8月と入居者の方がお亡くなりになったが、看取りは病院となった。重度化については、特養ホームをお勧めしているが、今後、当ホームでも看取りが出来るよう研鑽していきたい。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて説明しています。重度化や終末期と判断した場合は、かかりつけ医と連携を図り、家族との話し合いを密にして、方針を共有しながら利用者にとって最善の退所先の決定まで支援を続けています。	事業所として、今後の方針やケアについて、話し合いや勉強会を通して、研鑽を積み重ねることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故については、職員全員が初期対応、緊急連絡が出来るように定期的に確認している。今年度も昨年同様に急変がたび重なったが、素早く対応が出来ていた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害・火災時の訓練は年2回、行っている。	年に2回、夜間想定を含む避難訓練を行っています。1回は運営推進会議時に訓練を行い、参加者の協力を得ています。津波に関しては、事業所の2階に避難することとしています。「防災備蓄一覧表」で食品、備品の保管管理をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	馴染みの関係を大切にし、親近感のある対応を心がけながらも、年配者としての誇りやプライバシーを損なうことが無いように、職員は言葉遣いや対応を行っている。	職員会議で接遇に関する「グループホームそよ風の10箇条」の読み合わせをしています。さらに、職員間で、利用者との関係性が過剰になり過ぎないように確認し合い、人格の尊重とプライバシーの確保を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者さんお一人おひとりが自分の思いや悩み事を、話すことができるような雰囲気作りを心がけている。そうした中で、入居者さんが様々なことを自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人おひとりのペースを大切にしている。職員は利用者さんが、出来るだけ自力で日常の活動が行えるように、見守り、待つことを基本としている。必要に応じて、声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者さん自身の好みを大切にしながら、季節に合った服装いが出来るように声掛けし、その方らしい装い、清潔な身だしなみが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者さんの嗜好、好みは日常の会話の中からキャッチしている。今、食べたい物を伺い献立に生かすこともある。調理は職員が行うが、片づけは利用者さんにもお願いする。	メニューは隔週で担当職員がカロリー計算も考えて作成しています。利用者の嫌いな食べ物があれば、代替の食材を工夫して提供しています。利用者手製の漬物も食卓に上っています。誕生日やクリスマスなどの行事食も提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の形態、摂取量は個々の状況に応じて対応している。水分は、一日1ℓを基準として、食事前後のお茶、10時、3時、散歩・体操の後など身体を動かしたタイミングで飲んで戴いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアを行って戴くよう、声掛け・促しを行っている。自力で出来ない方には、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者個々の排泄記録を取っており、必要に応じて、トイレ誘導を行っている。日中はほとんど全員が、トイレ度の排泄が出来ている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握しています。ドアに分かり易くトイレマークを貼ったり、居室にポータブルトイレを置くなど排泄を可能にするための工夫を行い、自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を心がけ、繊維質が取れるように、野菜中心の献立を心がけている。又、お薬も適時利用して排便が習慣付くように対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には一日おきの入浴となっている。必要に応じて入浴の回数を増やしたり、ご本人の希望や行事によっては減ることもあり、柔軟に対応している。お湯の温度が42度でも温いという方がおり、浴槽に2度入っていたく等の工夫もしている。しょうぶ湯、ゆず湯等の行事湯も楽しんでいる。	入浴は1日おきで、天候に応じて午前、午後と臨機応変に対応しています。介護度の高い利用者もリフトで安全に入浴しています。時には入浴の順番をくじ引きで決めることもあります。湯はかけ流しにして贅沢な気分を味わっています。温泉の入浴剤使用や菖蒲、ゆずなどの季節の湯も楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者お一人おひとりの睡眠パターンを把握し、深夜に起きてしまうことがあっても、ご本人が安心して過ごせるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は職員が管理し、職員全員が各入居者さんの薬について種類・使用目的を理解している。(カンファレンス・ミーティングで確認)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事、園芸、手仕事など其々の入居者さんが興味を持てること、出来る事を日常の中で見つけ、行ってもらっている。地域で行われるコンサートやイベントに参加することも楽しんでいる。車を利用しての外出も年に数回行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日散歩することを日課としている。近所での買い物を入居者の方と楽しむように心がけている。ご家族にも、入居者の方と旅行やお食事に行かれることをお勧めしている。	天気が良い日には、近所の寺への散歩や日用品の買い物に出掛けています。花見やばら園鑑賞といった季節の外出を行っています。家族の協力を得て、外食や旅行に行く利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族、関係者との相談により、本人の希望があれば現金を持っていただいているが、物取られ妄想に繋がることもある。外出時は、少額の現金をお預かりしており、自由にご自分で使えることを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、いつでも電話が出来るようにしている。外部からの電話の取り次ぎも行っている。中には、携帯電話でご家族と連絡を取り合っている方もいる。手紙についても自由に出せるようにお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者さんと一緒に季節感のある飾り物や、季節の花をテーブルに飾ったりして、穏やかに楽しく過ごすことが出来る環境づくりを心がけている。食事の時間等、邪魔にならない程度に、オルゴールなどの音楽を流している。	リビングのテーブルは、大小組み合わせ、席は利用者の関係性に配慮しています。壁には、クリスマスなどの季節感がある飾り付けをしています。オルゴールの曲が流れていて、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関にはベンチを設置、一人になりたい方は、そこで過ごすこともある。気が合う方は、それぞれのお部屋を歩き来している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、ご本人の馴染みの家具等を可能な範囲で持ち込んで載っている。入居者の希望に沿った部屋づくりを心がけている。	居室はエアコンやソファ、クローゼット、洗面台を備えています。利用者は仏壇やタンス、トロフィー、手作りの刺繍のれんなど、馴染みのものを部屋に置いています。清掃や整理整頓などは職員が支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行が可能な方には、2階の居室を利用していただき、日に最低3回（食事の為）は、階段を上がり下がりして頂いている。		